

常任委員会

定例会3日目(9月10日)に提案・付託された請願第4号について、9月16日の常任委員会で審査を行いました。

委員会では、紹介議員(森建人)と提出者(刈田病院の健全経営を求める会共同代表 大槻昌嗣氏)から請願の趣旨などの説明を受け、質疑を行いました。質疑終了後、継続審査の動議があり、採決の結果、賛成少数で否決されました。続いて反対および賛成の討論が行われ、採決の結果、請願第4号は、賛成多数で採択すべきものと決定しました。審査の中で議論された主な内容は次のとおりです。

総務産業建設常任委員会

- 委員長 菊地 忠久
- 副委員長 森 建人
- 委員 澁谷政義・高橋純齋
- 小川正人・保科善一郎
- 大森貴之・角張一郎

◎安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願

●請願の趣旨説明

現在、危機的な経営状況にある公立刈田総合病院は、現在の体制のまま経営を続ければ赤字が膨らみ、資金繰りに行き詰まり、閉院を迎えることは明白

確保ができなくなり、市民サービスの大きな低下を招くことが容易に想像できる。

また、刈田病院の赤字体質を放置し、その穴埋めとして多額の補助金の繰り出しを続けられ、市の財政破綻につながることも容易に想像できる。

健全な病院経営と市の財政運営をすることで、市民が安心して暮らせるまち、企業が安心して仕事に取り組めるまちを目指して欲しい。

子どもたち、孫たちの世代に、より良い刈田病院と白石市を残してもらうことを強く望み、請願書を提出するものである。

●紹介議員と提出者への質疑

〔質疑〕6月にも同様の請願を提出し、取り下げをしているが、再度提出した理由を伺う。

〔答弁〕公立刈田総合病院運営検討委員会が設置され、有識者など第三者による議論がなされたため、検討委員会の議論に影響が出ないよう、一度請願を取り下げた。

検討委員会の結論が出たも

の、白石市外二町組合の臨時議会において、公設民営化を可能とする条例改正案が否決されたことから、このままの状況ではいけないという思いと、スピード力を持った経営改善が必要であるとの思いから、再度提出したものである。

〔質疑〕指定管理者制度が必要と考える理由を伺う。

〔答弁〕民間は行政よりも、スピード感や柔軟な発想、効率性や経済性、組織や業務の弾力性などにおいて優れている場合が多い。

指定管理者制度は、民間のノウハウを活用し、サービス向上施設の効率的な運営を実現するための制度である。

全国各地でも多くの自治体や施設で指定管理者制度を導入しており、積極的に活用すべきであると考ええる。

〔質疑〕指定管理者制度の導入においては、組合を解散し、市立病院として公設民営化を行う方法が検討されている。

そのうち地方交付税が約2億7千万円であったが、市の

組合を解散した場合、10億円とも言われる借財の負担全てが市にのしかかり、市民サービスの大幅な低下ばかりか市政自体を揺るがしかねない。

このことについてどのようなことを考えるか伺う。

〔答弁〕現在の刈田病院の運営のままでは、毎日約300万円、1カ月で1億円の赤字が出るということが問題である。

白石市議会でもしっかりと議論していただきたい。

〔質疑〕署名を集める中、どのような声があったか。

〔答弁〕「刈田病院を良くしてほしい、今のままでは病院も白石市も潰れてしまつのではないか」といった不安の声や、「刈田病院や白石市のために頑張ってください」など応援の声があった。

●市への質疑

〔質疑〕令和2年度の刈田病院への市の繰出金は10億円であった。

そのうち地方交付税が約2億7千万円であったが、市の